

多聞寺のお塔まつり

黒部 亨 〈作家〉



鈴を鳴らしながら熱心にご詠歌をうたう信者たち

六甲山吉祥院多聞寺の「お塔まつり」は、例年二月十三日が祭礼日なのだが、今年は二月十一日に行なわれた。

多聞寺は、兵庫区有野町の神戸電鉄六甲登山口駅の、北側山腹にある。左右に古びた杉木立の聳える参道は、かなり傾斜のきつい百四十一段の石段で、あえぎあえぎ登って境内にはいってみると、すでに祭礼の準備が整っていた。一風変わったにぎやかなまつりであることがビンと感じられる。

境内の二カ所で、たき火がバチバチ音をたてながら勢いよく燃えている。寒いときは何よりのご馳走とばかりますたき火にあたりながらおもむろに境内を眺めると、本堂の毘沙門天堂の前に、鏡をぶち抜かれた清酒の四斗樽がでんとすえつけられている。銘柄が多聞寺の名をとつた「多聞」というのだから念がいっている。本堂横の縁では、今日の儀式に使う料理が大鍋に二つ、うますぎな匂いをたててぐつぐつ煮えている。

境内のあちこちにはオモチャ屋、たこ焼き屋、わた菓子屋が店を張り、テントの中では地元婦人会有志が甘酒の接待をしているし、別室では茶の接待も行なわれているといったぐあいで、子供ならずとも浮きうきする雰囲気である。

「お塔」は「お当」とも呼ばれる。唐櫃の多聞寺と下唐櫃の恵念寺は「塔」の字を用い、そのほかの寺では

「当」の字を用いているようだが、意味は同じことで、要するに部落の守り寺（神社）に日供供燈する当番の受け継ぎの儀式なのである。どの部落にとどても、これはもつとも厳粛な行事とされている。

北神一帯のこの種の行事中、六甲山多聞寺のお塔まりが代表とされるのは、やはり歴史の古さ、由緒の深さによるためであろう。

多聞寺は人皇第三十六代孝徳天皇の大化元年（六四五）法道仙人の開基と伝えられている。大化元年といえば、史上有名な大化革新のなされた年である。

多聞寺はかねてより交通事故防止を祈念して交通安全護符を参詣者に配っている。同寺と交通安全と格別の関係があるのかといふかるムキもあるようだが、それなりの歴史的いわれもあるようだ。すなわち千三百年前、

多聞寺はかねてより交通事故防止を祈念して交通安全護符を参詣者に配っている。同寺と交通安全と格別の関係があるのかといふかるムキもあるようだが、それなりの歴史的いわれもあるようだ。すなわち千三百年前、



女人禁制で、男子だけによるおこそかな「お塔の受け渡し式」

法道仙人は印度の靈鷲山を発して陸路ヒマラヤの険を越え、當時多くの僧侶が熱望し果たさなかつた中國の靈崗龍門の地に足跡を印した。仙人はさらに海を越えてわが國の九州に至り、耶馬渓に羅漢寺を遣し、瀬戸内海を東上して六甲山に到着した。

この間まったく事故がなく、當時一人の人間の旅行としては奇蹟の行程といわれたところから、毘沙門天王は交通守護の大宗とされ、法道仙人は無事故の始祖として崇められるようになつたというのである。

多聞寺発祥の靈地は、だから六甲山頂である。山頂北面の洞窟に法道仙人は旅装を解き、頂上の巨岩に本尊の降臨を仰いだ。ちょうど仲秋の名月のときであつたといふ。この巨岩は「紫雲ヶ岩」と名づけられたが、俗に「雲ヶ岩」（心経岩）といわれているのがそれで、現在はゴルフ場の北側に高く聳え立つてゐる。多聞寺がいまでも春秋二回、満月の頃を卜して紫雲ヶ岩で求聞寺法を厳修し、柴燈大護摩秘法を修して庶民大衆の交通安全祈願祭を執行しているのはそのためである。

多聞寺はその後數百年興亡を繰り返したが、治承四年（一一八〇）平相国清盛の福原遷都によつて、もつとも隆盛な時期を迎えることとなる。清盛はこの年、大輪田の泊を修築するとともに、四月に都を福原に遷し、多聞寺が皇城より丑寅（北東）の鬼門にあたるため、京の鞍馬寺に擬して同寺を鬼門鎮護寺とし、伽藍を建立、千余町歩にのぼる寺領を寄進した。当時は寺坊も八力寺あつたといふ。

しかし、平家滅亡とともに多聞寺も衰微し、古記録によれば「回禄（寺領没収）、狼煙（戰火）」のため、伝器什物ことごとく紛失し、僧徒離散し、堂塔敗壊し、雨露まさに本尊を浸さんとす」というありさまになつた。平家の信仰を集めていた寺院だつただけに、当然の成り行きだつたといえよう。

多聞寺が現在の地に移されたのは寛正三年（一四六二）二月十一日である。それまでの六甲山頂では、人里



境内で行なわれる護摩焚き行事

てお塔まつりには女子は不淨の者としていつさい参加させられない。給仕（ケハイ）といふも男が袴姿であった塔受け渡しの主司者は、代々唐櫃部落の元祖といわれる四鬼氏の家長が掌る習わしになつてゐる。服装は四鬼氏と両区長が風折烏帽子直垂の正装に身を固め、住職をはさんで正座に着き、左右に持姿の塔人が居並ぶ。婦女の入座は絶対許されない。

その年の当番は俗に「精進屋」と呼ばれ、主司者に「四圓の不淨を廃し、三業を精進し、多宝塔の守護」を誓言する。このときに読み上げるものを指教書といつてゐる。次いで主司者が塔人を定める。「誰某の塔は誰に譲り、誰某の塔は誰に譲れ」と命ずると、酒盃が新旧塔人の間を往復する。この時がもつとも厳肅である。

当年の塔（当番）を命ぜられた者は、前年の塔人と酒盃を交わして交替の挨拶をする。この儀式中、ずっと謡曲「高砂」が謡われている。当日、塔人は仏前に供物を供えるが、餅だけでも一斗六升三合の米を用いるといわれる。

本堂の横で儀式用の酒や料理の支度をしてゐる西垣定雄さん（71）は、「こういう仕事も、みな男がやりまんね」と、頬冠りした顔をほころばせながら、お塔まつりのしきたりについていろいろと教えてくれた。

「塔人は上唐櫃部落から三人、下唐櫃部落から二人、合計五人」ということになつとります。穢（けが）のできた者は除外しますねん。塔任期は一カ年です。昔は塔人を出す家柄が決まつていましてな。すいぶん名譽なことでしたよ。一生に一度は塔人にならんと恥だといわれたもんです」

塔人はその期間中、葬儀などにはいつさい関わつてはいけない。家屋、衣服、器具などすべてにわたつて清潔を保ち、不淨な所に近づくことも許されない。極端に言えれば、臭味の物も食べず、他人から煙草の火を借りるのも忌むほど、徹底した齋戒清淨が要求された。文字通り精進屋に徹して、寺社の奉仕に懸命に勤めなければな

十時半、山主の越智賢仁師を導師とする八人の僧が本堂にはいり、まず法要がはじまつた。空氣の凍えた薄暗い本堂の中で、大般若波羅密多經の読経が湧き起こつた。僧たちの吐く息が白く凍つてゐる。

読経の声は境内から裏山までこだました。読経を終えてお坊さんたちが退場すると、二十人ばかりの信者たちが本堂に上つて、鈴を鳴らしながら詠歌をうたいだした。ほとんど老婦人ばかりである。次いで山伏をまじえた一般参詣者たちの読経が本堂の前で行なわれ、それが終つてからお塔まつりの中心行事である「お塔の受け渡し式」がはじまつた。新旧の塔人の交替式である。

もともとこの唐櫃部落の先祖は、平清盛が京の八瀬大原から宮仕えのため移住させたといわれており、男子は清淨を保つため農耕は女子に任せた風習があつた。従つ

らなかつた。

「この料理は『ぞうかんうはぶき』と言いましてな。もちろん精進料理ですよ。酒も料理も十一膳用意しまんね。まあ食べてみなはれ」

西垣さんが皿に料理を盛り、盃に酒をついですすめてくれる。大いに飲み、大いに食べるのがお塔まつりの特長なのだ。

皿の中を見るとイモノサイ、ゲンガク、フコワ、ワラビ、ヘギタイ、コミソツギ、それにホンダワラ、カキ、クリ、コンブなどもある。ツハズキ、柚、ゾウカソなども見える。すべてが平安時代の献立。料理も餅つきもすべて男の仕事という徹底した女人禁制である。箸はハゼの木で作る。大きな箸で、両端を細く中を太くしてあるのはめでたいという意味。餅は十日の夜中につき、紅白二種類つくつて十一日に村中に配るという。



お祭のあと話がはずむ越智さん、西垣さん、筆者（左から）

「戦争中には供え物に不自由しましてね、苦労しましてよ。それでも今まで絶やさずにやってこられたのは、もちろんその年その年の塔人の努力のおかげですわ」と、西垣さんはしみじみと言う。

お塔まつりには飲食物や供物がたくさん必要なので、昔から費用のかかるので有名である。古くは塔人は一人だったが、それでは家財を傾ける場合があるので、塔人を五人にして共同責任とした。それでもかなりの負担だった。たまたま大正八年頃、大峰山登山講に紹介状が出されて、添護摩料二千円の収入があつて以来、これが機縁となつて毎年のお塔まつりに添護摩帳を依頼することになり、その収入をもつて年間の維持費の大半を賄うようになった。

新しく塔人になつた者は、儀式が終ると仏壇の供物（紅白の大餅など）を家に持ち帰り、近親者を招待して祝宴を張る。昔はその祝宴が數日間に及んだというから、いかに名譽なことであつたかがわかるうといふもの。だから塔人になつた家族たちは、お塔まつりの日は朝から緊張して、儀式の無事終了を告げる寺の鐘が鳴りだすまでは、何も手につかずにソワソワしちばなしだといふ。その鐘が、長時間の儀式の終了を告げて、高らかに鳴りだした。そういえば多聞寺のこの梵鐘は、昔から野良仕事をしている村人たちに、午を告げる大時計の役割を勤めているが、いつ頃からか「小便鐘」というユーモラスな渾名を奉られている。時間があまり正確でなかつたからだという。というより、野良仕事の合間に小便に立つた村人たちが、そのついでに鐘楼に上つて撞くことが多いからである。こういうところにも多聞寺の庶民性があらわれていてほほえましい。

境内を見渡すと、振舞酒に陶然となつた男性や、甘酒のサービスに頬を染めた婦人や子供たちで華やいでみえる。たこ焼きの匂いが境内に漂う。マス酒をすすめられた外人観光客も、うれしそうにはしゃいでいる。

悲心に昇華させることによって築かれる世界を象徴している。仏教では塔は世界を意味しているのである。

本堂から出てみると、悪魔退散の護摩焚き行事がはじまっていた。勢いよく燃えあがる護摩壇のまわりで、参詣者たちの読経の声がひときわ高くなつた。何人かの山伏もまじつていていた。



アタフタと護摩木の上をかけぬける筆者

筆者も右や左から樽酒をすすめられ、三ばい四はいとやつていているうちに、いささか酩酊気味と相なつてきた。酔いを煽るように鐘の音が境内にこだましている。醉眼を見開いてよく見ると鐘を撞いているのは一般参詣人や子供たちで、心なしか、もつと飲め、もつと食え、と鳴つていてるよううに聽こえてくる。

「ご本尊を拝んできませんか。ここのご本尊は年に一度しか開扉されませんから、ぜひ拝んでおきなはれ」

西垣さんに誘われて無人の本堂に上る。おそるおそる内陣にはいって、ご本尊の毘沙門天像を拝観する。白檀丸木造りで、脇侍として毘沙門天の妃の吉祥天女、その子の禪尼師童子が祀られている。二尊とも永徳三年（一三八三）六月に安置されたものといわれ、三尊で一家和合の意をあらわし、子授け、子育ての神としても信仰されている。

毘沙門天は別名を「多門天」といい、軍神として信仰されている。仏の道場を護ることによって絶えず仏の説法を聞くところから名づけられた。仏法を聞くことによつて煩惱の夜叉、羅刹を統御し、布施と精進につとめ、衆生守護の働きをするといわれる。

甲冑に身を固めているのは道心堅固を意味し、怒りの形相は智恵の働きをあらわしている。仏教では忿怒形はすべて智恵の働きを意味しているのだ。右手の宝棒（宝劍）は求道の妨げをなす内なる煩惱を打ち折伏する智恵の働きを象徴し、左手の宝塔は人びとが自己の煩惱を慈

やがて恒例の「火渡り」の儀式がはじまつた。火渡りというのは読んで字のごとく、はだしで火の上を渡り歩く行法で、御岳教はじめ修驗系や山岳信仰系の宗教では毎年の神事に行なわれる。火道の周囲にはしめ縄を張つた青竹をめぐらし、しめ縄に切紙を下げる。先導は行者が立ち、呪文を唱えながら手に九字を切つて進むと、その後から参詣人の火渡りがはじまつた。まだ、燃えくすぶつていてる護摩木の上に塩をふりまき、その上を渡るのである。婦人や子供も半ば目をつむつて渡つていて。見ている方がハラハラする。

筆者も、日頃から体内に果食つてゐる煩惱の虫を焼き殺さんものと、勇をふるつて靴を脱ぎ、靴下を取つたものの、何とも薄気味わるいことがおびただしい。しかし、背後から同行の橋本記者に「躊躇逡巡は『時』の悪魔なり」という言葉があるじゃありませんか。いまこそ体内の悪魔を退散する絶好のチャンスですぞ」とケシかげられては逃げ出すわけにもいかず、また、前方からカメラを構えて待つてゐる藤原カーラマンの期待を裏切つては申しわけないという責任感にも駆られ、文字通り飛んで火に入る夏の虫よろしく、一気に駆け渡る。

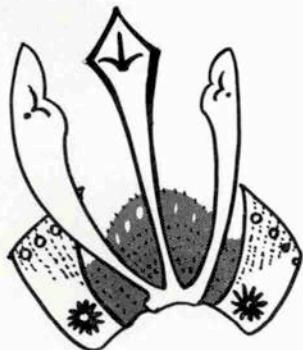
渡り終えたあと、境内に聳えている樹齢三百年の榧の名木が、何ともすがすがしく目に映じたのは不思議であった。本当に全身の悪魔が退散したような爽快感である。熱いと感じなかつたのは、心頭を滅却したためでは勿論ない。さきほどらしいガブ飲みした樽酒の酔いが、足の裏の感覚を鈍らせていたせいにちがいない。

（次回は三木の法界寺）



たくましい子を祝う端午の節句

五月人形



おもちゃの



三宮方面でのお買物は……

さんちか店 ファミリー タウン 391-4045

三宮店 センター 街 山側 331-4969

元町方面でのお買物は……

元町店 元町通 3 丁目 山側 331-0090

バンブウ店 元町通 1 丁目 不二家前 391-0768

みよしや

姫路 佐磯

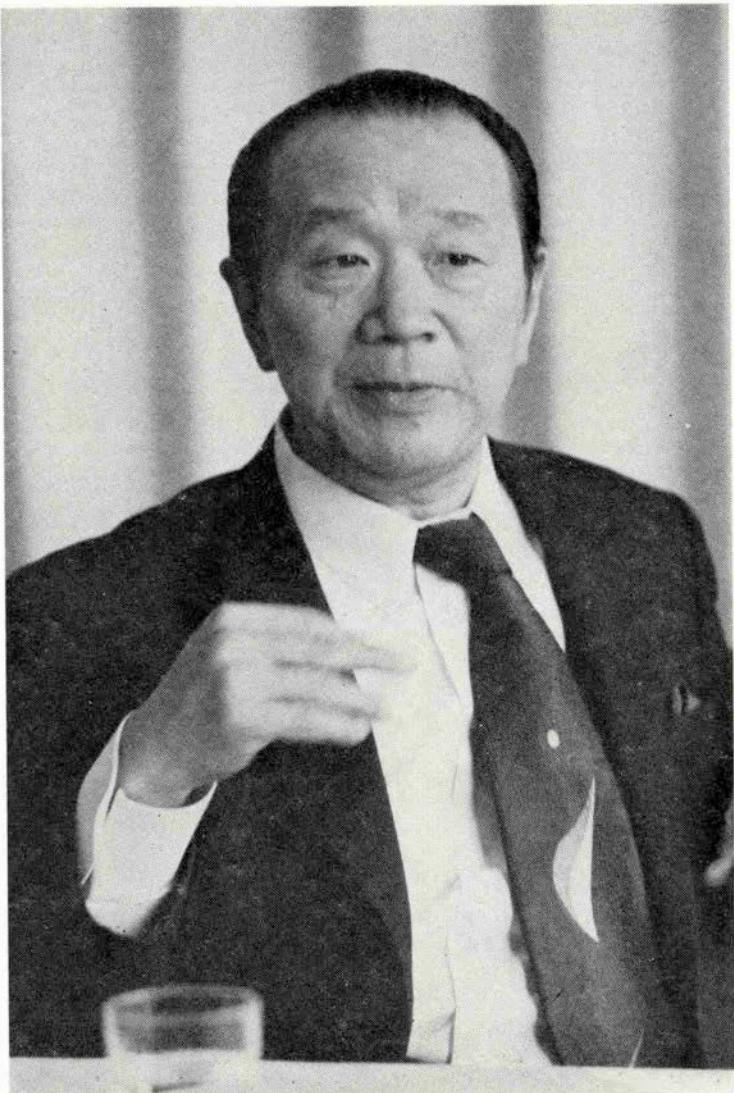
電話 神戸 大阪店
やまとや 大阪店
姫路店 電話 331321
② しき 345
二百九 五百二
二貨五 二店
二四四 番番階
番番階 代代前

神戸つ子の自己発見に

□出席者

岡本 太郎
川上 勉
板野 悅子

〈画家〉
〈オールスタイル社長・K・F・A会長〉
〈ファミリア専務〉



「冒険のなかから神戸のオリジナルを……」と岡本太郎氏

★パリジャン・エレースのモード

川上 まず、気軽にファッショントリーフについての放談でもお聞かせ頂ければ嬉しいのですが。

岡本 パリでエレースという女性と親しくなったのですが、その彼女が非常に変った恰好をしていてね。一九三

五、六年に一九〇〇年代の恰好なんですね。それが一緒にパリの町を散歩しようというんですね。こつちはかなわないのだが、断わるわけにもいかないので彼女と一緒に散歩した。そうすると、パリの連中がエレースの恰好に振り返るのですね。日本女性の着物姿に振り返らなかつた連中ですよ。

ところが、それから半年程したら、エレースの恰好がモードになってしまったのですね。だから、彼女の場合は、自分の本当の好みで良く以合う、好きな恰好をしていて、そういう恰好が流行し出したからそういう恰好をするというのじゃないのですね。

それで、エレースのように抵抗はあっても自分の意思



川上 勉さん

で着るというのは良いと思うのですね。ヒッピーでも初めてあいう恰好をした連中にはそれなりの意味があると思うのだが、みんながそれの真似をして、モードになつてしまふと虚しいと思うんだなあ。

★ほんものの芸術に流行はない

川上 その虚しいという中に、何か生きる喜びとか、ほのぼのとしたようなものを発見するということは認めませんか。

岡本 認めないです。それに、本当の芸術というものは、流行にはあいませんよ。今の芸術は流行を追っているんだなあ。例えば、モダンアートというものが、ロン・ドンやパリなんかから入って来ると、それまでのモダンアート否定論者まで、みんなパーッとそれにとびついてしまつたのだけね。ボップアートとかその他色々とね。

川上 そうすると芸術の中にもファッショントリードのようなことがあります。

岡本 ええ、そうですよ。

川上 すると、芸術で最初にクリエイトするには、産みの苦しみというようなものが……。

岡本 苦しみというより、抵抗は非常にあるわけですね。

パリやロンドンでやっていることをそのままやつていれば、それだけで正しいことだと思うのですね。その中で自分の本当のオリジナリティ、自分の奥の中に入り、心の奥底にあるものを独特な形で出しても、それが基準に合わないね。インテリや芸術家の間では、そんな苦しみは確かにしています。

だと思うのだけれどね。

ところが、そういうものには判断の基準がないのですね。例えばフランスのどこそこのものだといつたら、どんなひどいものでも買うじゃない。そして、自分が虚しくなるんだな。

板野 でも、それを買うことによって得意なひともあるでしょう。

岡本 だから、問題なのは、初めから虚しいからそういう虚しいことをやることによってその虚しさをごまかしてしまうことなんですよ。

テレビで恰好良いのを見て、日頃の懲りを晴らすこともそうだしね。自分をごまかしているのですよ。自分が虚しいから、虚しい番組を見ることによって、逆に自分の虚しい心を癒すのだね。それがファッショントリックの中にもあるわけですね。

★古い伝統だけからさがしてはダメ

川上 話は変るのですが、神戸ファッショントリックの

★神戸が神戸であることを見せてほしい

板野 わたし、神戸人は東京なんかとは違うと思うのですよ。

例えば、自分の好みの色がない

ときなんか、東京のひとならお店のひとの勧めるのを買うというの

ですが、神戸のひとはそんな風に

は答えないのですね。ですから、

神戸のひとというのは非常に根の生えたファッショントリックのを持つていると思うのですね。物真似でなくて意思がはつきりしていると思うのですよ。戦前なんかはファッショントリックは神戸から東京へ行っていたと思うのですよ。

岡本 それは、モードというの



板野 悅子さん

ローカルな個性のあるもの、独特なものを築き上げて行きたいと思うのですが、それで、業界の団体をつくってこれからそういう方向へ進もうじゃないかという企画があるのですが……。

岡本 その結果をみせて貰わないと、実現され得ないときともいえないけれど、でも、どうしたって土台になるのは向こう（欧米）のものだから……。

川上 今考えているのは、日本にも古くから、色々な服装があるので、如何にしてそれらを現代に表現するかということやら……。

岡本 それは間違っていると思いますね。古いものから捜すといつても、それは日本 자체のものじゃなくって、大陸からの風俗の真似なんですね。それに日本人の身体も変って来ているしね。だから、その意図は結構なんですがれど、難しいんですね。それに、おたくなんかは壳れないと思ふるしね……。

歐米がそもそも土台であって、それにより早くアプローチ出来る場所に流行が生まれるということであって、

戦前に神戸が偶々そういう条件であつただけだということだと思いますね。

それも、土台はいつも歐米であって、それにはどういうパリエーションをつくるかだけであつてね。

それに、流行に簡単になびかない。自分といふものを持っているのが神戸の女性だとおっしゃるが、それはどうかも分らないが、それならその証拠を見せて欲しいと思うのですね。

つまり、パリやロンドンやローマなんかにもなかつたものを喜んで身につけて歩いている女性の写真でもあれば、ああそうかなと思い、みなさんの努力も分るのであります。ですから、もので如何にも神戸が神戸であるところを見せて下されば、こちらもハハアそうかということなのでですがね……。(笑)

★商業的な危険と冒險を冒して神戸性をつくれ!

川上 ファッションを志すひとを神戸に育てるというこ

とについて……。

岡本 とにかく今やモードをやって行かないとやって行けないという産業システムがあつてですね、みんなそのシステムによって踊らされているのですね。

モードとかデザイナーなんかもみな現代のこのシステムの中にまき込まれて虚しいことをごまかそうとして虚しいジエスチャーをしていると思うのですね。

そこで、さてどうしたら良いかとなると商業的には危険を冒さないとね。つまり、こんなものとでも売られたものじゃない、商売になりっこないというようなものを作って、それを通用させることができれば、そこで初めて、ああ、そんなことを神戸でやつたのか、神戸の女性たちは平気でそんなものを身につけているのかというこ

今のようにでは神戸から来たのか、大阪から来たのか、それとも東京から来たのか分らないですね。

★神戸つ子の自己発見のキッカケをつくる
ファッションに

川上 最後にファッションを志すひとに何かアドバイスというようなことを。

岡本 自分というものから遠ざかって来れば来る程救われる。そんな気持ちになることは大変くだらないことです。たとえば、美容院へ行つて自分の顔から遠ざかれば遠ざかる程、喜んでお金を払うとかね。自分の顔から遠ざかたときにホッと安心するということがどれだけ嬉しいことかということですね。

一番大事なことは、自分の顔やなりが流行と違つても、何か自分を生かす、自分の情熱を生かす恰好をしていることですね。

ある程度はその時代のモードに合わせたとしても、その中でどれ位自分を生かすか、とこれが大事ですね。

その中の一番素晴らしいものをあなた方が汲み取り、また、アドバイスしたりということは大変良いことだと思いますね。これは、個性といふものが一般性とつながっているということで、そこで初めて神戸独自のスタイルが出来て来ると思うのですね。

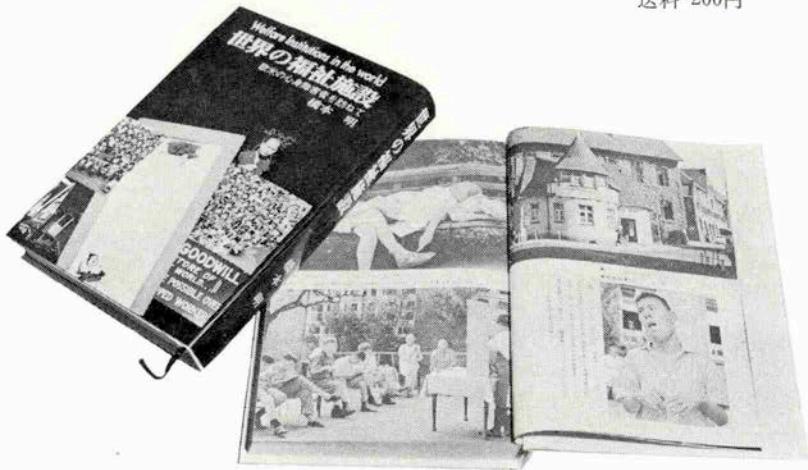
ひとりの神戸つ子が似合うのだったら、もっと多くの神戸つ子が感動するかも知れない。それをアドバイスして広げて行くと絶対に歐米にないもので、しかも、みなさんに似合う、その時代と余りかけ離れていないものが出て来るのではないかと思うのですよ。

神戸つ子の自己発見のキッカケを作られたら、それは良いと思うのですよ。

世界の福祉施設

欧米の心身障害者を訪ねて

橋本 明著 〈カラー 8 ページ、本文320ページ、定価 1000円〉
送料 200円



● 福祉時代の幕開けです。あなたも一冊ぜひどうぞ！

主な内容

- 神戸からシアトルへ
- クライシス・クリニック
- グッドウイル・インダストリーズ
- 里親発見活動
- フォースターグランドラントベアレント
- ファーストアベニュー・サービスセンター
- ボランティア・ビューロー
- 病院におけるボランティア活動
- レニア・スクール
- アメリカのグループホーム
- 砂漠の中の老人の町
- ボーリーズ・タウン
- パーキンス盲学校
- スポック博士の子供博物館
- アビリティーズ
- ロンドンのバーナードホーム
- 奇蹟の町・ルルドを訪ねて
- コペンハーゲンの老人の町
- ベーテル——西ドイツの障害者
- ランダのコロニー（オランダ）
- ヘット・ドルブ——未来を拓くオ

各書店で好評発売中！

お申込みは月刊「神戸っ子」編集部まで。神戸市生田区東町113の1 大神ビル8F TEL(331)2246

お祭りを楽しもう！



★神戸っ子12周年記念パーティ ごあんない

ミナトのかもめが春を告げるとき、月刊「神戸っ子」も皆さまの暖かいお力添えによりまして12周年記念を迎えました。

4月7日(土)サンボーホール2階大ホールで、恒例の12周年パーティを開き、神戸っ子にふさわしい、楽しく、愉快な交流のひとときを持とうというものです。

愛読者のみなさまにもご参加をおすすめいたします。

とき 4月7日(土)

午後6:00~8:30

ところ サンボーホール2階大ホール

〈神戸商工貿易センタービル北側〉

会費 ¥3,000(税込み)

神戸っ子12周年記念パーティプログラム

1. '73ブルーメール賞表彰式

美術部門 丸本 耕 文学部門 鄭 承博

音楽部門 矢野恵一郎 古典芸能部門 若柳吉由二

2. 神戸っ子ファッショニショウ

3. '73神戸っ子 酒祭り

①神戸酒徒番附表彰式

②酒亭オープン

4. 神戸っ子サンバ サンバ・デ・コウベ・ビバ・サンバ バーカッショング古谷哲也他

主催 月刊「神戸っ子」

後援 月刊「オール関西」

神戸百店会・灘五酉会他・アサヒビール
サントリー・キリンビール・ニッカ・三
楽・マンズワイン・KOBEのClub & Bar

●お問合せ、お申込みは／月刊神戸っ子編集部迄
神戸市生田区東町113ノ1大神ビル8F tel 331-2246~9

第3回

★神戸まつり

5月19日（土）20日（日）

前夜祭

「神戸っ子」サンバチームへ

あなたも参加しませんか

今年も年に一度の神戸まつりがやってきました。月刊「神戸っ子」は、この神戸のお祭りに参加をつづけてきましたが、5月20日のパレードには例年最終の美を飾ってにぎやかに「神戸っ子サンバ」チームとして、サンバのリズムでミナトKOBEらしい雰囲気を盛りあげてきました。

この底抜けに陽気な5月のお祭りに、読者の皆さまも「神戸っ子サンバチーム」の一員として参加なさいませんか？サンバのリズムと踊りは特訓でコーチします。

さあ、若い心をお持ちのあなたも「神戸まつり」でヘンシーン！を……。

「神戸っ子」サンバチーム出場

とき・5月19日前夜祭 中央祭典一神戸中央体育馆

と 午後3:00~3:30

ところ・5月19日前夜祭 青年広場午後5時~9時
(ニュポートホテル西噴水広場)

●パレード

5月20日午後1:00集合予定 パレードは午後5時頃、パレードの後は青年広場で午後10時頃迄

コーチャー パーカッション古谷哲也(TVヤングオーオー
でおなじみの打楽器奏者)

サンバのダンスは例年の出場者がコーチします。
(阿波踊りと大差ありません)

会費 一人 大人2,000円(楽器、衣裳生地つき)
学生1,000円(")

4月・5月中の特訓日と時間——古谷哲也 コーチによるレッスン

4月14日(土) 午後6時より8時
於さんプラザ7階サンセブンホール

21日(土) "

28日(土) "

5月5日(土) "

12日(土) "

17日・18日予定

■お問合せ、お申込みは月刊「神戸っ子」編集部迄
神戸市生田区東町113ノ1大神ビル8F tel331-2246~9

Spring has come!

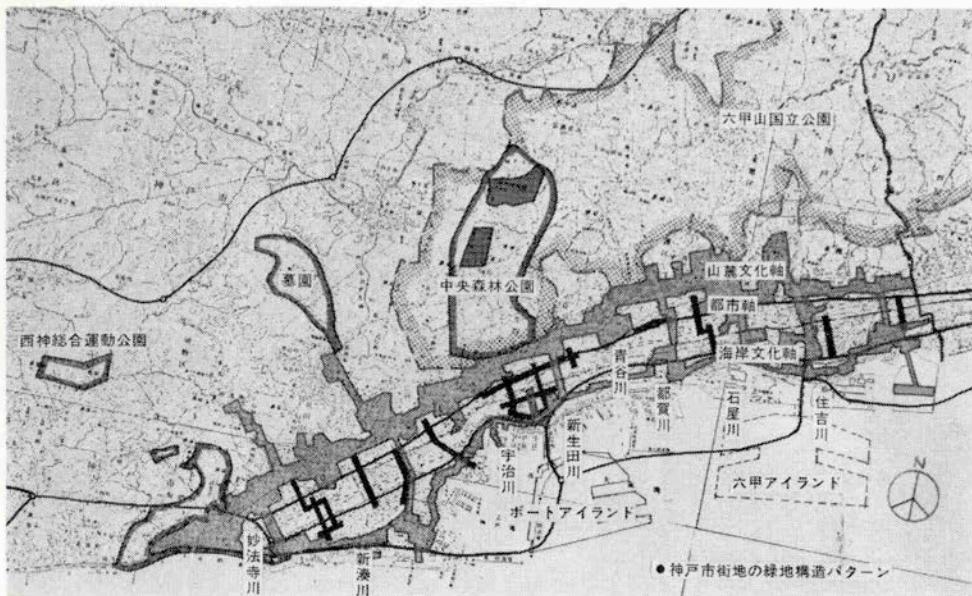


神戸のアーバンデザイン

⑦

『神戸のみどり』
あなたと神戸とみどりをつなぐもの
—— 水谷頼介+チーム・UR

①



● 神戸市街地の緑地構造パターン

★ 舞子では、植木鉢のチューリップ球根が発芽の準備をし、バルコンに光と風がやつてくると、道端のサクラの街路樹に花がつくのはもう近い。三宮では、商店街の朝はあまり早くない。昨日のゴミを捨てる時に、柱にぶらさがっているボンコンフラワーにも水をやろう。御影では、生垣のカイヅカイブキのうえでコブシの花が咲き、庭そうじの手を休め、ウメの盛りも終っていることに気付いた。

神戸の街のあちらこちらで、あなたの隣りで、自然是春の準備をしています。

★ 六甲山と瀬戸内海にはさまれた神戸の街は山々を東西に連ねる山麓の緑地文化軸と、水ぎわを東西に連ねる海岸の緑地文化軸、それらを街の中で南北につないでいる8本の河川緑地軸と、商店街・公共施設を中心とした生活軸とによって、街の中にみどりのネットワークを造っていくパターンが、将来の神戸市街地緑地構造の基本となるでしょう。

★ あなたの身の廻りの「みどり」と、神戸全体の「みどり」の構成のあいだには、ずいぶんといろいろな「みどり」が見忘れられるようです。

たとえば、鎮守の森や春の小川、あるいは公園にはブランコや砂場・ベンチばかりで、日本庭園みたいなものがどうして少ないのだろう? ベランダに置くきれいな植木鉢はどこに売っているのだろう? 他人の空地に勝手に木を植えたらやつぱりいけないかなあ? 団地だつたら?

★ そういった、「あなた」と「神戸」と「みどり」をつなぐいろいろなものを、次回から街の中に搜してみます。

△ 小林郁雄 ▽

神戸のモダニリビング 『赤い屋根の六甲台ハウス』

73

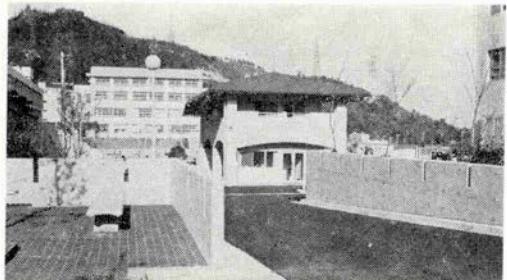
水谷頼介+チーム・UR



▲赤い屋根と煙突のような光窓がユニークです



▲アプローチには低層の集会所があります



▲広場の中のレンガ公園と集会所むこうに学生寮が見えます



▲広場を囲む形で住棟が配置されています

神戸の街を特徴づけてきた材料に、赤い瓦の屋根があります。この赤い屋根と六甲山の緑が重なった坂の街、というのが市民の生活環境蓄積の基礎になってきたわけです。ところが、最近、この赤い屋根の重なりのかへ、白い高い箱がどんどん割りこんできて街の調子をくずしていきます。街中にひろがってきたアパートやマンションなどの進出がその原因です。

調子をくずさないことへの配慮——それは、街のなかへ参加する建物の、ます常識の身だしなみですが、なかなかそれに気をつけた行動が少ないので困ったことです。

六甲台に建ったこの六甲ハウスは、その常識を守っているいい例です。材料が瓦でないのがちょっと残念ですが、赤い勾配屋根をつけて煙突のような光窓をつけています。屋根のひさしの先にだけ化粧廻しをしたようなごまかしの屋根まがいではありません。もう一つ、足もとにこれも赤い屋根の集会所を建てています。

四角い高い箱を敷地のなかへほんとほり出しただけの共同住宅団地とは違つて、周囲の低い街並みと連続する雰囲気を、ちょっと与えてくれているようです。

近所にすらりと並んでいる共同住宅。

——屋根を忘れた建築が、上からみても、また遠くから眺めてみても、きわめて混雜なのに對して、このまどまりだけは、なんともなく落着いた街区になっています。(水谷頼介)

神戸遊戯誌 115

★神戸だけの伝統的なスポーツ競技

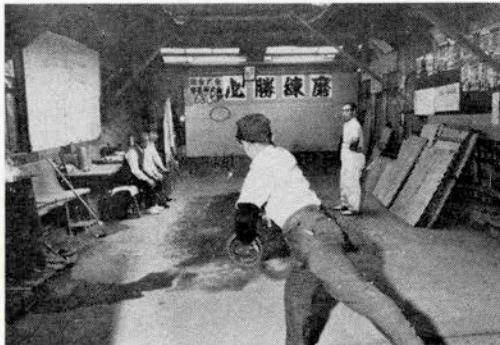
昭和四一年七月一日、夜八時からのNHKテレビの番組の「私の秘密」で投げ輪競技が全国に放送された。

「私は投げ輪競技のチャンピオンです」という問題で、神戸投輪連盟の個人連盟名譽記録保持者（投込二七一点特S一七〇、特W二三二、総合五三二）の畠田芳夫選手はじめ広田利八、家永忠男、豊田勝男の四選手が出場して競技を行なった。「私の秘密」にとりあげられるくらいだから、一般にあまり知られていないことは事実である。

たしかに投げ輪に戦前から親しんできたのはわが神戸人ぐらいのもので、他府県、他都市の人びとにはほとんど親しまれていないように思う。「輪を投げる」から投げ輪というのが正しい呼び方だが、神戸では昔から「輪投げ」という名前で多くの市民に親しまれてきた。この競技が神戸の町に初めて登場したのは大正十年前後だが、

大正末から昭和十年頃へかけて市内各所で盛んに行なわれた。神戸港に立ち寄る船のデッキの上で外国船員たちが輪投げを楽しんでいたのがいつの間にか陸上でも行なわれるようになったものである。筆者なども少年時代から大人が道路に盤をおいて黒い輪を投げて楽しんでいる風景を市内でよく見掛けたし、時には町内会主催の競技に出くわすこともあった。××町内会輪投げ大会と大書した広場や空地に盤が何台も置いてあって夜遅くまで歓声の聞かれたことも遠い思い出の一つである。

だが、なんといっても神戸の輪投げのメッカは背山の各茶屋だったと思う。以前に本欄で裏山登山のことについてくわしく書いたが、当時たくさんの山登り客の中で各茶屋に置かれた輪投げ盤に向かって熱心に輪を投げる人の数は多かった。裏山登山といえばおもに現在も残っている再度山道、布引登山道、高取山道の三つを指すがこれらの登山道にある各茶屋には昔は大抵ピンポン台か輪投げ盤が置かれていた。大人も少年たちも茶店でコ一



布引道場での投輪風景



岩川博之氏



森豊秀氏



中川一雄氏



宮本秀夫氏

投輪① 青木 重雄

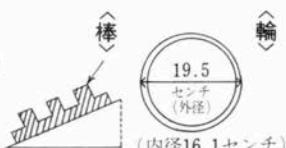
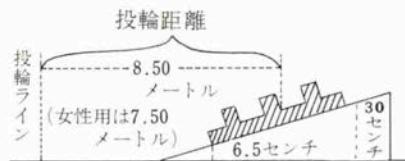
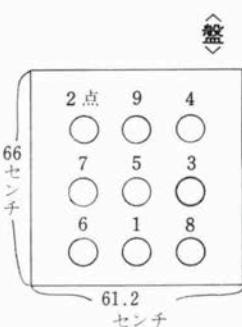
ヒを飲んだり、関東煮を食べたりしながら、一方ではビンボンや輪投げに興じたものだ。もつとも今日でも同じ風景が見られるが、輪投げ盤を置いている店はうんと少なくなつたし、それを楽しむ人々の数は昔とは比較にならぬほど少ない。いわばビンボン台と輪投げ盤は昔の茶店に欠かされぬ山上競技の一つだった。以上の三登山道が開かれたのは輪投げが神戸市民に紹介され始めた大正十年前後だったから、裏山登山とこれらの競技は並行して行なわれたといつてよい。あれからすでに約五十五年を数えるのだから茶店の輪投げ（一般と会員制の二つあつた）の歴史もすいぶん古いわけだ。

その後戦争のため一時は下火となつたが、戦後ふたたび頭をもち上げて多くの人々に楽しめだしたが、こんどは昔と違い、山の茶店や市中よりも職域やクラブでの競技がめだつて多くなつた。やがて昭和二年に神戸で全国で初めての「神戸投輪連盟」（とうりんれんめい、本部＝神戸市葺合区布引山・あけぼの茶屋内、支部＝長田区高取山ツキワ内）が誕生するやそれらの職域団体やクラブチームが連盟に参加してだいに復興の波に乗り出した。同時にルールもくわしく制定されて正式のスポーツ競技としての資格を備えるようになつたことは、投

げる輪の大きさや投げる距離も（盤から十三歩などといつて）一定しなかつた昔のやりかたとは大きな相違である。

スポーツだといつてもなかには「あんなものはこどもの遊びではないか」という人もあるかもしれないが、いざ実際にやってみるとなかなかどうしてこどもの遊びどころか力とワザと練習量のいる競技で、一流選手ともなると二、三十年のキャリアナーがあり、じつにみごとな競技振りをみせる。ボウリングのボウルを投げる時的心境と輪を投げる時のそれとは全く同じで、どちらも手を離れる瞬間に雑念があるとよい成績は出ない。

さて、こうして発展した今日の神戸市教委レクリエーション協会所属の同連盟には十三チーム（職域九、クラブ四）が参加し、年に二回（五月と九月）の団体戦と一回の個人戦（九月、団体戦共王子体育館で市長杯争奪）を行なつてゐるが、連盟外にも神戸市内に四十ぐらいのチームがあり、なかなかの隆盛振りをみせてゐる。ところで投輪は今日でもほとんど神戸独特の競技であるわけで、従つて使用輪などは本部の古い会員の磯口豊吉さん（四九）一人が作つてゐる現状である。次回にここらで投げ輪の盤と輪と棒の実体を簡単に紹介しよう。



芯は綿ロープの輪に黒い綿テープ（8ミリ幅）を四回巻きつける。
重量は一・六五——一・七キログラム。
鉄製。全長30.5センチ。盤面より20.4センチ。盤面から先端へかけての幅一・三センチととする。材質はJISによるSS4-Bまたはこれに類似のものとする。

丸印の九本の棒に九つの輪を投げ込んで、輪がはいった点数が多ければ勝つわけだが、五種目の方法がある（次回紹介）。盤はセメントで固めか硬質木材。

なお、くわしくは、同連盟事務局（岩川博之氏）担当、電話5777局0322長田区四番町一丁目一七〇へどうぞ（四八・三・四記）

□3月号写真説明の西中信治四段は、岩鈴兼生五段の間違いであります。慎重して訂正させていただきます。

動物園飼育日記 — 83 — 亀井一成

ないしょ話シリーズ<4> ゾウ4トンのいとなみ



わたしの朝は早い。動物たちが乏しい陽さしを浴びて一日の活動をはじめるころには、必ずかれらの前に顔をみせる。何といつても朝の最大の楽しみは、動物たちが入園のある日中には決して見せない私生活の一端をのぞかせてくれるからである。長い間、その本当の姿がナゾとされていたカバの水中交尾とお産、また日本唯一のクロサイ一家のブライバシーも、そしてゾウの性の行事を目撃したのもやはり朝のことだった。

ゾウは水浴後からならず多量の土砂を全身に浴びる。前肢をまるでスコップのように前向きにけり、うまく穴を掘つては土砂を背にのせ、時にはコロがつて背中を地表にこすりつけるのである。

こうした行為は防暑のためとか、外寄生虫（特にダニ）の駆除のためとか、カムフラージュのためとかいろいろ説明されるのだが、ともかくゾウの穴掘り行為は性の行事とは何の関係もない。子ゾウでも穴掘りと土砂浴びをやるのである。

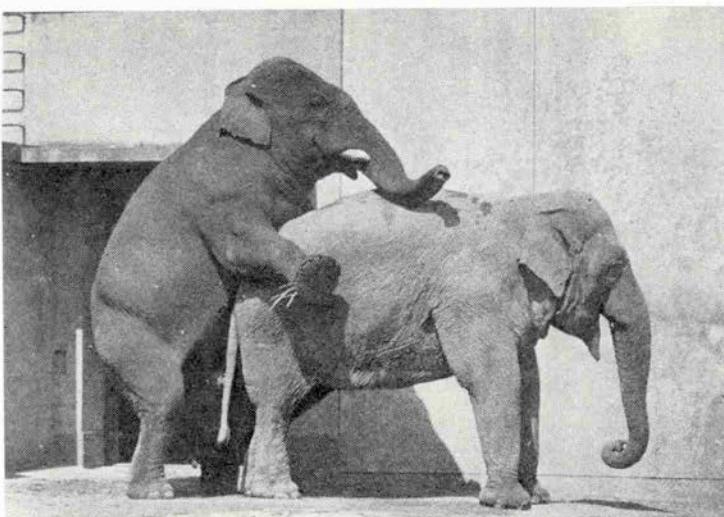
それにもかかわらず、こうした穴を掘つてコロがつているゾウ夫婦の姿をみた人間がさもそれらしく早合点「ゾウはヒトさま同様、腹上位、つまり地上に穴を掘つてメスがその中に仰臥して……。」といった間違いがつい最近まで信じられていた。

ところで、日本国内の動物園においてゾウの出産に成功した例は、いまだに一件もない。死産の例でさえも宝塚動物園で昭和四十年に一度みられただけである。しかし、皮肉なことに三年前の八月大阪万国博覧会場でタイゾウの「ヒロバちゃん」が生まれたのが日本最初の誕生記録となっている。

なぜ日本の動物園でゾウが生まれないのか、その主な原因是オスゾウの狂暴さにあつた。訓練されていないオスの成獣は、アフリカゾウに比べおとなしいといわれるインドゾウでさえも荒々しく、飼育者でさえ殺傷される危険があるからだ。

なんといつても四トンを越す巨体であり、興奮すればおとなしそうな外見とは似ても似つかない実力を發揮する。インドやタイで、労役に従事したりサーカスで芸当をやつているゾウは常にきびしい訓練をされているのだから、あれを見てゾウとはまことにおとなしいものだ、と思われては困る。

ともかくオスの狂暴さはメスの発情期には極限の状態に達する。食欲を欠き、飼育者にさえ激しく襲いかかってくる。ところがそのシーズンのさなか、なぜかオスゾウが前肢を痛めがちになる。どうも奇妙だし、とにかく四トンもの体重を支えている四肢の一部の負傷は命取りになりかねないので、その対策には頭を痛めていた。



王子動物園のゾウはオスの方が若くて体格も小さいのです。

ウントを見たことからこの負傷の原因がわかったのである。背高二・八メートルのメスの背後からオスが反動をつけ一気にマウントした瞬間、わずかにメスが動いたため、オスがよろけて前肢を地上にたたきつける。それが捻挫や逆爪を起こした原因だったわけだ。

とにかくメスがいやがつてマウントさせまいとするところは、激しくサジストするので、シーズン中にメスの尻や背はオスのキバでキズだらけになってしまいます。それにもかかわらず、ゾウはあるの鋭敏な鼻を使っていろいろと性的な愛撫をおこなうという一説があるが、わたしの

観察した限りでは鼻を互いにからませたり、相手の“そこの部分”を嗅ぎあう程度しか見たことがない。もつとも発情期にはいると生理的に排尿の頻度が増加したり、時折りオスがメスの尿を嗅いで回ることはある。このようにゾウの性の行事が誤って伝えられたよう人に間のそれと似かよっているというようなことはまたたくない。巨漢のゾウですら“馬型の体位”なのである。

ただ話のついでにゾウの“人間臭い”ところをあげることはできる。たとえばメスゾウの“その物”的位置や形態が四肢動物中、もつともヒトのそれに類似していること。また乳房の位置が人類とまったく同じ胸部に左右一対あること。交尾そのものは一分にも満たないほどの瞬間に終ってしまうが、オスはメスの発情期がおわりない限り毎日のように強要を続け昼夜追尾行動をやめないことなどがヒトに似かよっているところかも知れない……。しかし、ゾウはマウント以外の体位で交尾を行つたという実例は全くないことをあらためて云つておきたい。

また面白いことに発情期のあいだ、オスの強要にジーッと耐えていたメスゾウもシーズンが終るとにわかに居直りはじめ、メスは実力でオスをたたきのめしてしまう。王子動物園ではオスの方がメスよりも若く体格も僅かに小さいこともあるて、いつたん夫婦ゲンカがはじまれば、オスは簡単に戦意をなくしてしまう。あげくの果て逃げ場がなくなるとオスは部屋の隅にうずくまってしまふことさえあった。それでいて、約一ヶ月でくりかえす性のシーズンがやってくると、またぞろ、がらりと変身。男らしく荒々しくメスの尻のあとを追いかけはじめるのである。

（約十歳で性的に成熟し、特定の繁殖期はなく一産一仔を生む。妊娠期間約六三〇日）



互いに鼻をからませあって愛撫するゾウ

長い旅路から帰った旅人の家



●我家のお知らせ
オーディオルーム
<PM8:00より>
月曜日 小山乃里子
<ノコちゃん>
金曜日 三浦 純朗
<ミウラサン>
その他の曜日は外入アナ
ウンサーのD.J.

電 331-5664

居酒屋風 れすどらん 井戸のある家

Tea time a.m.10:30~4:00

れすどらん p.m. 4:00~a.m.2:00

アン・ドウトワの
物語の始まり……



cafe et restaurant

UN DEUX TROIS

電 391-8639

営業時間/p.m.5:00~a.m.2:00

そよかぜの中に春をキャッチ！



★ヨーロッパのトップモードの直輸入を服部メガネが
オリジナルパターンに。

★豊富なストックで度付カッレンズがすぐできます。



顕微鏡・天体望遠鏡・航海計器・光学器一般

服部メガネ店

神戸・大丸前 TEL 331-1123



きものと細貨

ちんがら庵

神戸

西 店/三宮センター街・電話 331-8836(代)

東 店/三宮センター街・電話 331-0629

三宮店/さんちかタウン・電話 391-4303

東京

銀座コア店/4階着物コア・電話 573-5298(代)

渋谷東急店/5階和装名家街・電話 462-3409(直)

日本橋東急店/4階和装名家街・電話 211-0511(代)
(内線294)

池袋パルコ店/4階着物小路・電話 987-0561(直)

刀 剣

日本民族の象徴である美術刀剣武具甲冑を豊富に取揃え皆様のご来店をお待ちしております。



鑑定 買入
研 白鞘 振 御承処

神戸市生田区元町通6丁目25番地

刀
古
美
骨

剣
術
董

元町美術

〒650

TEL 078-351-0081

★神戸の集いから

●日印国際親善交歓の夕べ開く



チキンカレーに舌づみを打つ日印協会員の皆さん



「アラム号」のシーマンたちに花束が……。

二月十三日、布引のインド大使館で、日印国際親善交歓の夕が催された。別名（印度料理を味わう会）といふこのパーティは、神戸ユネスコ協会・神戸日印文化協会その他の文化団体の共催で、約二〇〇名余りの集う盛大なパーティであった。7 P・M・OPENのこの会は、協会長の桑原氏や印度大使の挨拶、インド航空提供の映画、そしてエキゾチックな印度舞踊は、ミス・ヴィーナ嬢、最後に本場のチキンカレーに舌づみをうつて終宴。日印両国の神戸らしい楽しい夕べの一刻が過ぎた。

●ロウベシップクラブパーティ

二月二十四日夜。港の見えるレストラン「バーク」（貿易センタービル24F）で、久々に、コウベシップクラブのパーティが開かれた。

会員の谷本さんの司会で、ゲストの、英國船カーゴーシップ「アムラ号」（一万トン）のシーマン七名が招待されて、会員七〇名となごやかな交流会が持たれた。ローストシティキャツの楽しいウエスタンソングや、シップゲイムダンスタイムに、シーマンも唄を歌つて返礼した。

●キャラントイ・コーナー



★第三回キャンティボーリング大会なごやかに

キャンティボーリング大会は、二月十一日ポートサイドレーンで、約一〇〇



左二人目石田夫人、右二人目松本さん

四名が参加して開催。今回の優勝者は松本憲吾さんと石田夫人。大会後、東明閣で表彰式や博多人形のステキな賞が各自にあたりなごやかに親睦交流。又、北店オープンにあたり、本店店長村山俊一、北店店長飯尾輝夫さんが紹介された。

洋酒の店キヤンティ
Chianti*

神戸・生田区北長狭通二二三
TEL ▲391-3060